景気動向調査結果

この調査は、県内中小企業の景況・金融動向を把握するため、当協会の保証を利用されている企業の皆様のご協力により、四半期ごとにアンケートを実施しているものです。

【調査方法】

Webによる無記名アンケート方式

調査時点　令和4年9月1日発送
　　令和4年9月16日投函期限

調査対象　信用保証利用先3,000企業

有効回答数　435 企業（回答率　14.5% ）

※ 当期：R04年7月～9月実績見込
次期：R04年10月～12月期予測

【DI値について】

◎回答の各構成比を算出し、「増加」・「好転」等の項目割合から「減少」・「悪化」等の割合を差引いて算出しています

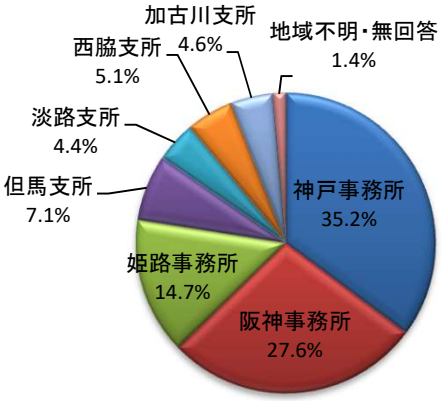
◎表示されている構成比とDI値は、四捨五入の関係で必ずしも一致しません

兵庫県信用保証協会

Ⅰ．貴社の概要について

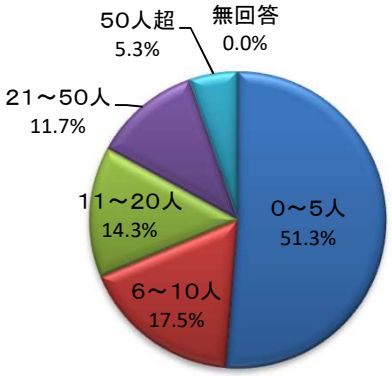
主たる事業所の所在地はどこにありますか。

当協会の部署	回答数	構成比
神戸事務所	153	35.2%
阪神事務所	120	27.6%
姫路事務所	64	14.7%
但馬支所	31	7.1%
淡路支所	19	4.4%
西脇支所	22	5.1%
加古川支所	20	4.6%
地域不明・無回答	6	1.4%
合計	435	100.0%



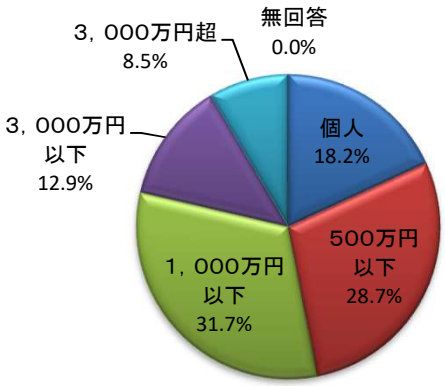
従業員数をご記入ください。

従業員数	回答数	構成比
0～5人	223	51.3%
6～10人	76	17.5%
11～20人	62	14.3%
21～50人	51	11.7%
50人超	23	5.3%
無回答	0	0.0%
合計	435	100.0%



資本金をご記入ください。 ※個人は「0万円」と記入

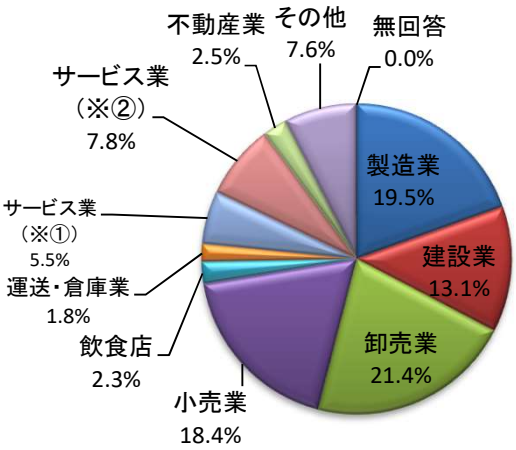
資本金	回答数	構成比
個人	79	18.2%
500万円以下	125	28.7%
1，000万円以下	138	31.7%
3，000万円以下	56	12.9%
3，000万円超	37	8.5%
無回答	0	0.0%
総計	435	100.0%



主要な事業は以下のどの業種に分類できますか。

業種	回答数	構成比
製造業	85	19.5%
建設業	57	13.1%
卸売業	93	21.4%
小売業	80	18.4%
飲食店	10	2.3%
運送・倉庫業	8	1.8%
サービス業（※①）	24	5.5%
サービス業（※②）	34	7.8%
不動産業	11	2.5%
その他	33	7.6%
無回答	0	0.0%
合計	435	100.0%

※① 事業者を対象
※② 一般消費者を対象



Ⅱ．貴社の景況、借入難易感についてお尋ねします。

（1）当期（22年7～9月期）は、前期（22年4～6月期）に比べどのような状況ですか。
（2）次期（22年10～12月期）は、当期（22年7～9月期）に比べどう思いますか。

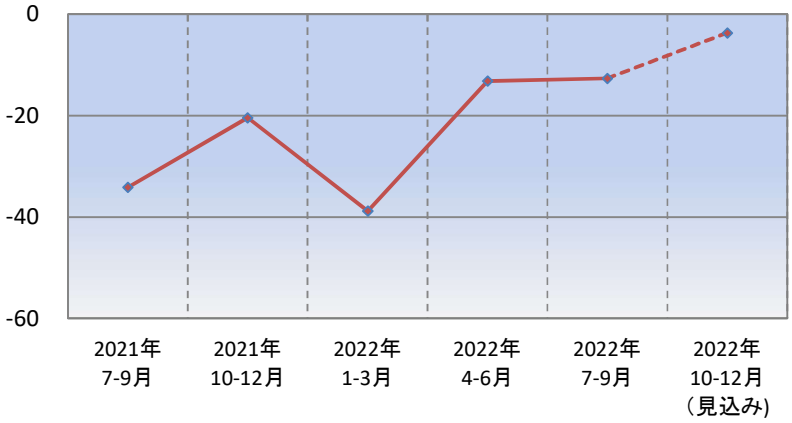
【生産・売上】

当期

選択肢	回答数	構成比
増加した	113	26.0%
変わらない	154	35.4%
減少した	168	38.6%
無回答	0	0.0%
総計	435	100.0%

次期

選択肢	回答数	構成比
増加すると思う	124	28.5%
変わらないと思う	171	39.3%
減少すると思う	140	32.2%
無回答	0	0.0%
総計	435	100.0%



生産・売上DI（増加－減少）

調査時期（実績）	2020年 7～9月	2020年 10～12月	2021年 1～3月	2021年 4～6月	2021年 7～9月	2021年 10～12月	2022年 1～3月	2022年 4～6月	2022年 7～9月	2022年 10～12月（見込み）
兵庫県	▲ 43.9	▲ 36.6	▲ 49.7	▲ 40.9	▲ 34.2	▲ 20.4	▲ 38.8	▲ 13.2	▲ 12.6	▲ 3.7

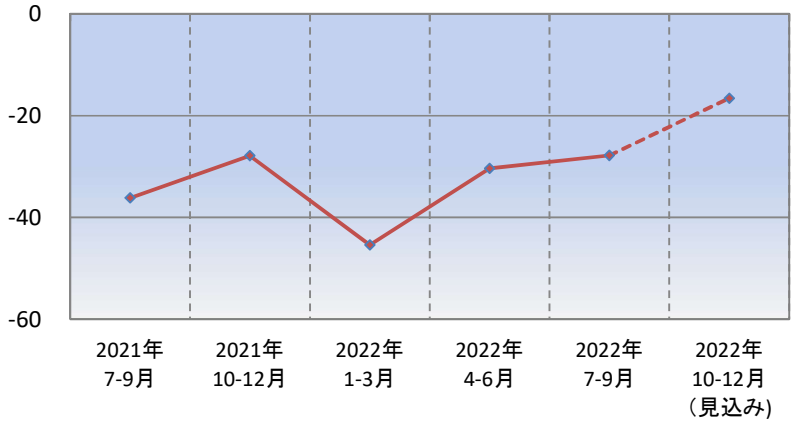
【採算】

当期

選択肢	回答数	構成比
好転した	58	13.3%
変わらない	198	45.5%
悪化した	179	41.1%
無回答	0	0.0%
総計	435	100.0%

次期

選択肢	回答数	構成比
好転すると思う	79	18.2%
変わらないと思う	205	47.1%
悪化すると思う	151	34.7%
無回答	0	0.0%
総計	435	100.0%



採算DI（好転－悪化）

調査時期（実績）	2020年 7～9月	2020年 10～12月	2021年 1～3月	2021年 4～6月	2021年 7～9月	2021年 10～12月	2022年 1～3月	2022年 4～6月	2022年 7～9月	2022年 10～12月（見込み）
兵庫県	▲ 40.4	▲ 35.6	▲ 42.1	▲ 40.3	▲ 36.2	▲ 27.8	▲ 45.4	▲ 30.3	▲ 27.8	▲ 16.6

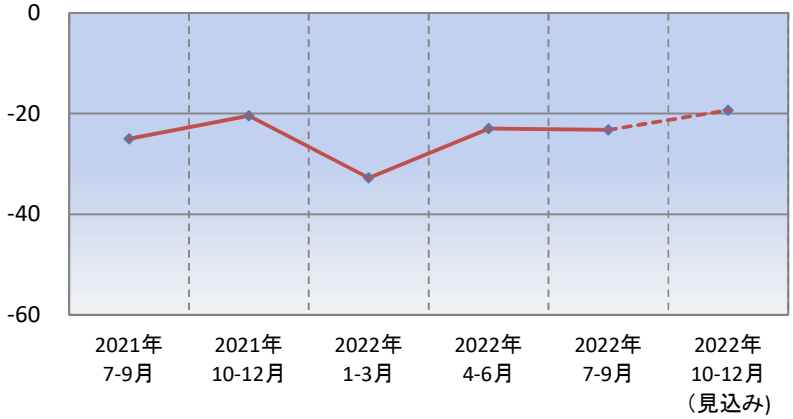
【資金繰り】

当期

選択肢	回答数	構成比
好転した	28	6.4%
変わらない	278	63.9%
悪化した	129	29.7%
無回答	0	0.0%
総計	435	100.0%

次期

選択肢	回答数	構成比
好転すると思う	43	9.9%
変わらないと思う	265	60.9%
悪化すると思う	127	29.2%
無回答	0	0.0%
総計	435	100.0%



資金繰りDI(好転－悪化)

調査時期(実績)	2020年 7～9月	2020年 10～12月	2021年 1～3月	2021年 4～6月	2021年 7～9月	2021年 10～12月	2022年 1～3月	2022年 4～6月	2022年 7～9月	2022年 10～12月 (見込み)
兵庫県	▲ 21.8	▲ 21.9	▲ 28.8	▲ 28.1	▲ 25.0	▲ 20.4	▲ 32.8	▲ 23.0	▲ 23.2	▲ 19.3

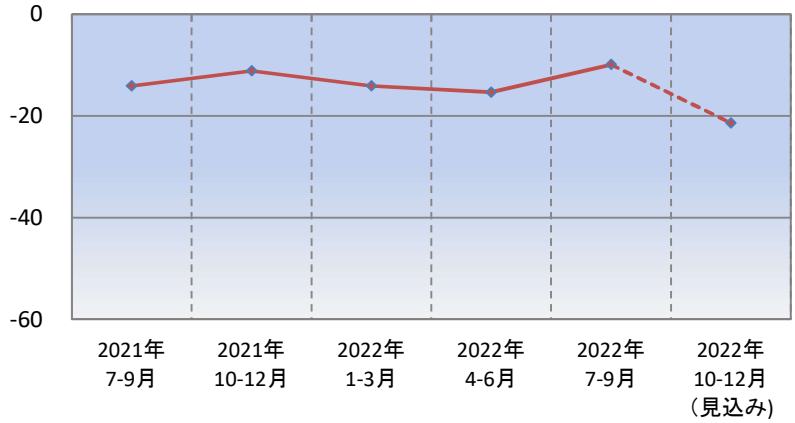
【借入難易感】

当期

選択肢	回答数	構成比
容易になった	25	5.7%
変わらない	342	78.6%
難しくなった	68	15.6%
無回答	0	0.0%
総計	435	100.0%

次期

選択肢	回答数	構成比
容易になると思う	15	3.4%
変わらないと思う	312	71.7%
難しくなると思う	108	24.8%
無回答	0	0.0%
総計	435	100.0%



借入難易感DI(容易－難しい)

調査時期(実績)	2020年 7～9月	2020年 10～12月	2021年 1～3月	2021年 4～6月	2021年 7～9月	2021年 10～12月	2022年 1～3月	2022年 4～6月	2022年 7～9月	2022年 10～12月 (見込み)
兵庫県	5.5	▲ 0.6	▲ 8.0	▲ 14.4	▲ 14.1	▲ 11.1	▲ 14.1	▲ 15.3	▲ 9.9	▲ 21.4

当期(7-9月)のDI値については、前期(4-6月)に比べ、「生産・売上」「採算」「借入難易感」の項目において改善し、「資金繰り」の項目において悪化しました。
次期(10-12月)のDI値については、当期(7-9月)に比べ、「生産・売上」「採算」「資金繰り」の項目において改善し、「借入難易感」の項目において悪化する見込みとなっています。

【金融機関からの信用保証付要請】
次期

選択肢	回答数	構成比
強まると思う	103	23.7%
変わらないと思う	301	69.2%
弱まると思う	31	7.1%
無回答	0	0.0%
総計	435	100.0%

信用保証付要請DI（強まる－弱まる）

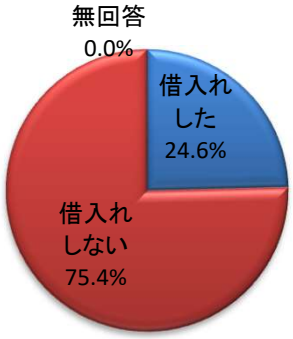
調査時期（見込み）	2020年 4～6月（7～9月）	2020年 7～9月（10～12月）	2020年 10～12月（1～3月）	2021年 1～3月（4～6月）	2021年 4～6月（7～9月）	2021年 7～9月（10～12月）	2021年 10～12月（1～3月）	2022年 1～3月（4～6月）	2022年 4～6月（7～9月）	2022年 7～9月（10～12月）
兵庫県	6.3	4.1	7.8	7.8	3.6	1.8	3.9	4.4	6.9	16.6

金融機関からの信用保証付要請は、「強まると思う」とする回答が、「弱まると思う」とする回答を大幅に上回っています。

Ⅲ.当期（22年7～9月期）の借入れ（実績見込）についてお尋ねします。

当期に金融機関から借入れをしましたか。
※手形の割引は含めません

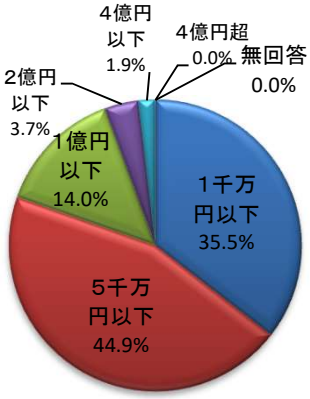
	22年7～9月期		22年4～6月期	22年1～3月期	21年10～12月期	21年7～9月期
選択肢	回答数	構成比	構成比	構成比	構成比	構成比
借入れした	107	24.6%	18.7%	17.5%	22.0%	20.3%
借入れしない	328	75.4%	77.6%	81.6%	76.3%	79.5%
無回答	0	0.0%	3.7%	1.0%	1.6%	0.2%
総計	435	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



当期の借入れは、前期と比べて5.9%増加しています。

当期に借入れした総額はいくらですか。

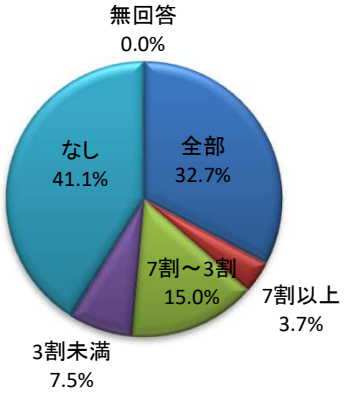
	22年7～9月期		22年4～6月期	22年1～3月期	21年10～12月期	21年7～9月期
借入れ総額	回答数	構成比	構成比	構成比	構成比	構成比
1千万円以下	38	35.5%	38.0%	37.5%	38.9%	33.0%
5千万円以下	48	44.9%	35.2%	40.3%	40.0%	39.6%
1億円以下	15	14.0%	18.3%	11.1%	6.3%	8.8%
2億円以下	4	3.7%	2.8%	2.8%	6.3%	5.5%
4億円以下	2	1.9%	1.4%	2.8%	1.1%	1.1%
4億円超	0	0.0%	2.8%	1.4%	2.1%	2.2%
無回答	0	0.0%	1.4%	4.2%	5.3%	9.9%
総計	107	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



当期の借入総額は「1千万円以下」「5千万円以下」の合計が80.4%となり、構成比の大半を占めています。

当期の借入金額のうち、信用保証付き借入れの割合はどのくらいですか。

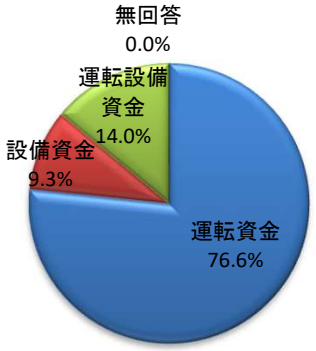
	22年7～9月期		22年4～6月期	22年1～3月期	21年10～12月期	21年7～9月期
選択肢	回答数	構成比	構成比	構成比	構成比	構成比
全部	35	32.7%	25.4%	31.9%	34.7%	37.4%
7割以上	4	3.7%	14.1%	6.9%	5.3%	3.3%
7割～3割	16	15.0%	12.7%	5.6%	16.8%	18.7%
3割未満	8	7.5%	5.6%	12.5%	5.3%	5.5%
なし	44	41.1%	38.0%	38.9%	32.6%	25.3%
無回答	0	0.0%	4.2%	4.2%	5.3%	9.9%
総計	107	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



前期と比べ、当期の信用保証付き借入れの割合は「全部」とする回答が7.3%、「7割～3割」とする回答が2.3%、「3割未満」とする回答が1.9%、「なし」とする回答が3.1%それぞれ増加し、「7割以上」とする回答が10.4%減少しました。

当期借入金の目的は何ですか。

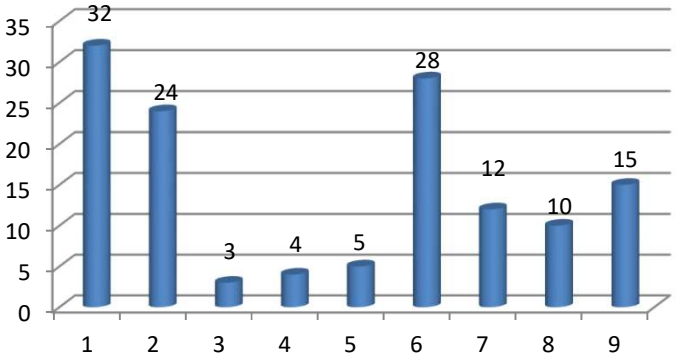
選択肢	回答数	構成比
運転資金	82	76.6%
設備資金	10	9.3%
運転設備資金	15	14.0%
無回答	0	0.0%
総計	107	100.0%



当期借入金の目的は、「運転資金」とする回答が大半を占めています。

上記で「運転資金」「運転設備資金」と答えた方は、運転資金の種類は何ですか（複数回答）。

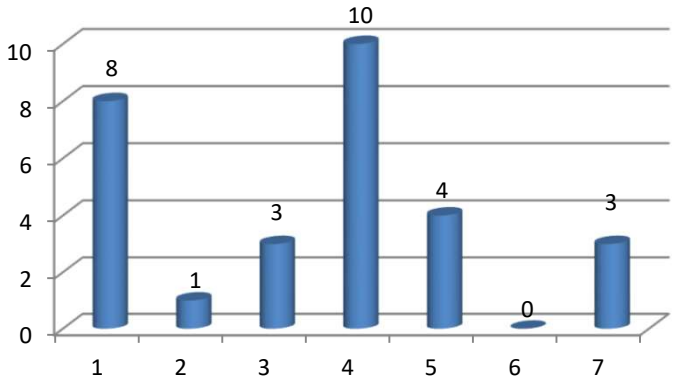
選択肢		回答数
1	***既往借入の借換え***	***32***
2	売上減少・赤字補填	24
3	過剰在庫対応	3
4	支払条件短縮対応	4
5	回収条件悪化対応	5
6	売上増加運転資金	28
7	在庫積み増し	12
8	季節運転資金	10
9	その他	15
総計		133



運転資金の種類は、「既往借入の借換え」が最も多く、次いで「売上増加運転資金」「売上減少・赤字補填」となっています。

上記で「設備資金」「運転設備資金」と答えた方は、設備資金の種類は何ですか（複数回答）。

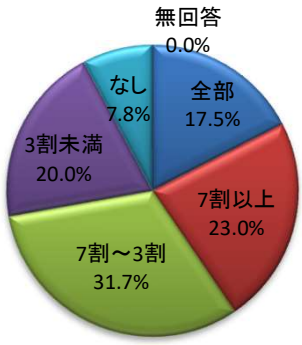
選択肢		回答数
1	新規事業	8
2	生産増強	1
3	合理化・効率化	3
4	設備老朽化に伴う入替	10
5	修理・修繕	4
6	公害防止・環境関連	0
7	その他	3
総計		29



設備資金の種類は、「設備老朽化に伴う入替」が最も多く、次いで「新規事業」となっています。

Ⅳ. 信用保証の利用についてお尋ねします。当期末（22年9月末）借入総残高に占める信用保証利用の割合はどのくらいですか。

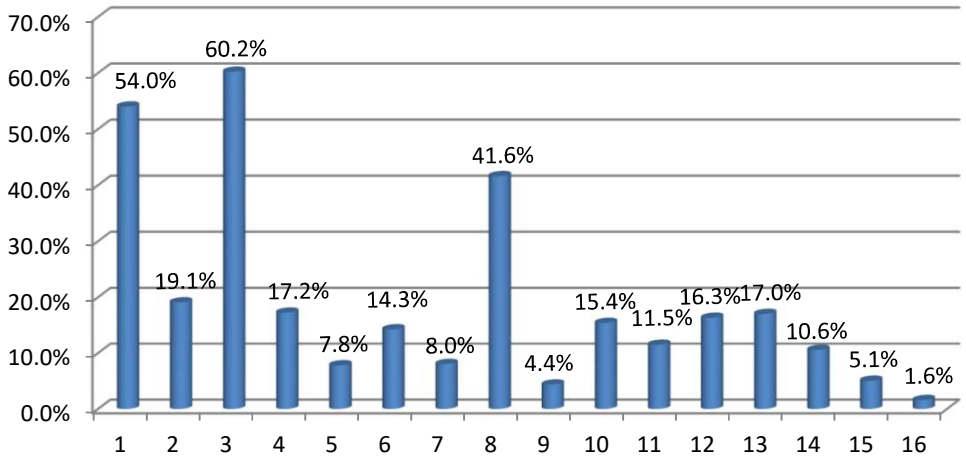
	22年7～9月期		22年4～6月期	22年1～3月期	21年10～12月期	21年7～9月期
選択肢	回答数	構成比	構成比	構成比	構成比	構成比
全部	76	17.5%	18.7%	16.5%	19.0%	20.8%
7割以上	100	23.0%	23.0%	20.1%	17.4%	20.5%
7割～3割	138	31.7%	32.2%	34.2%	35.5%	35.0%
3割未満	87	20.0%	16.1%	18.7%	15.8%	13.8%
なし	34	7.8%	5.0%	5.3%	7.0%	4.9%
無回答	0	0.0%	5.0%	5.1%	5.3%	4.9%
総計	435	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



信用保証利用の割合は、「全部」「7割～3割」とする回答が減少し、「3割未満」「なし」とする回答が増加しました。

Ⅴ．その他（経営上の課題等）について該当する番号をご記入ください(複数回答)。

選択肢		回答数	回答割合	選択肢		回答数	回答割合
1	***売上・受注の減少***	***235***	***54.0%***	9	過剰在庫	19	4.4%
2	競争激化	83	19.1%	10	設備投資	67	15.4%
3	***コスト高***	***262***	***60.2%***	11	後継者難	50	11.5%
4	業界構造変化	75	17.2%	12	資金調達	71	16.3%
5	取引条件の悪化	34	7.8%	13	借入過多	74	17.0%
6	消費者ニーズの多様化	62	14.3%	14	為替	46	10.6%
7	技術・商品開発	35	8.0%	15	海外景気の減速	22	5.1%
8	***人材・労働力の確保***	***181***	***41.6%***	16	その他	7	1.6%



経営上の課題については、「コスト高」「売上・受注の減少」「人材・労働力の確保」が上位となっています。
次いで、「競争激化」「業界構造変化」「借入過多」の順となっています。